

2024衆議院選挙の意義

法政大学
山口二郎

1 総選挙の意味をどう読むか

① 久しぶりに祝杯を挙げた総選挙

- 自公過半数割れ
- 安倍派議員の討ち死に
- 立憲民主党の前進

小選挙区効果

- 最大の受益者としての立憲民主党

- 小選挙区得票率と議席率

自民党	38%	46%
立憲民主党	29%	36%

- 第一党にボーナス効果があるのは当然として、第二党にもボーナス効果があった＝「とりあえず立憲民主党」という判断

比例代表における断片化

- 各党の比例得票数（単位：万票、千以下を四捨五入）

自民	1458	参政	187
立憲	1156	社民	93
維新	511	保守	115
国民	617		
公明	596		
れいわ	381		
共産	336		

② ネオ55年体制の終わり

- ネオ55年体制（境家史郎）

55年体制 社会党が改憲阻止のために1/3を確保

90年代の政治改革で政権交代可能なシステムを目指したはず
しかし2010年代野党は再び護憲政治に戻った

- 安倍一強体制とネオ55年体制

改憲阻止のための野党共闘

参議院の1人区における戦いの構築

自公過半数割れ

- 安倍政治のさまざまなひずみの蓄積
- ひずみの解放としての自公過半数割れ
- 歴史的役割を終えた野党共闘、市民連合
- 戦後革新の終わり 共産党の老朽化 社民党の泡沫化
- サヨナラ安倍政治、しかし喜んでばかりはいられない

共産党への疑問

中央委員会常任幹部会 10.28

- また今度の総選挙では、第29回党大会以来の理論的開拓の到達点にたち、日本共産党のめざす未来社会——社会主義・共産主義社会が、「人間の自由」が全面的に花開く社会であることをおおいに訴えてたたかう、初めての選挙戦となりました。
- これらの訴えが共感を集め、とりわけ若い世代、労働者のなかで新鮮な注目と期待をよんだことは、来年の都議選・参議院選挙のたたかいにとっても、党の世代的継承を中軸とした党づくりをすすめるうえでも大変重要な教訓だと考えます。
- 総選挙で訴えた政策、わが党の綱領路線、科学的社会主義に確信をもって、今後のたたかいにのぞむことを全党によびかけるものです。→ マジか

2 これからどうするか

① 少数与党体制の奇妙な安定

- 最小限勝利連合としての自公＋国民民主
- 内外の危機と政局安定という命題
- 石破茂というキャラクターの意義

② 野党優位をどう生かすか

- 国会の機能回復
- 委員会審議の重要性
- 国政調査権の発動と安倍政治の旧悪暴露
- 野党側からのアジェンダセッティング

③ いくつかのシナリオ

1 自民党のしぶとさを発揮する

- 少数野党の分断、取り込み
- 自公過半数の回復と政権の持続
- 国際環境の危機を内政に利用する

2 ヤジロベエ構造

- 左右のポピュリスト政党の台頭→財政の破壊
- 危機管理のための既成政党の協力
- 大連立による統治能力の確保という可能性

3 再びの政権交代

- 立憲民主党における政権構想の構築
- 「国民の生活が第一」をもう一度
- 大民主党の再結集